

教科	国語	科目	文学国語	単位数	2	履修年次	1年	2年	3年
						履修形態		必修	

教科書	第一学習社 高等学校 標準 文学国語	副教材等	第一学習社「高等学校 文学国語 学習課題集」 桐原書店「セレクト漢字検定」
-----	-----------------------	------	--

### 1 学習の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。

(2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

### 2 身に付けてほしい力

<input type="radio"/> 学びの価値を重んじる思考力	<input type="radio"/> あきらめずに最後までやり通す忍耐力
<input type="radio"/> 規律やルールを守り、目標を追求する行動力	<input type="radio"/> 多様な価値を認め、他者と助け合う友愛力

### 3 学習評価(評価規準と評価方法)

評価の観点	知識および技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。
評価の方法	○定期考査、単元テスト ○学習活動の状況 ○ワークシートへの取り組み	○定期考査、単元テスト ○学習活動の状況 ○ワークシートへの取り組み	○定期考査、単元テスト ○学習活動の状況 ○ワークシートへの取り組み

### 4 先生からのアドバイス(予習・復習の方法、授業の受け方など)

- 授業では生徒に発問します。積極的な学習態度は「主体的に学習に取り組む態度」ならびに「思考力・判断力・表現力」として評価します。
- 単元の中で書く活動があります。また学習プリントや単元ワークを行うこともあります。いずれも「思考力・判断力・表現力」として評価します。
- 定期考査は授業の内容を中心に出题されます。授業ではただ板書されたことをノートに写すのではなくしっかりと自分で考え理解しましょう。「知識および技能」「思考力・判断力・表現力」として評価します。

年間授業計画

学期	月	学習内容	学習のポイント	
前期	4月	古典から受け継がれる話の由来を調べる	○古典作品の今日への影響について理解する。	
	5月	「兒子のそら寝」(『宇治拾遺物語』)	○歴史的仮名遣いに慣れる。 ○古文特有の言い回しについて学ぶ。 ○人物のやりとりを追いながら読解を深める。 ○文節・自立語・付属語用言について学ぶ。	
	6月	「芥川」	○古語辞典などを使い自分で口語訳ができるようになる。	
	7月	「あづさ弓」	○和歌の修辞法について学ぶ。	
	8月	古典の和歌を現代の言葉に書き換える	○和歌という伝統文化への理解を深める。	
	9月	前期期末考査	○「リズム」を残したまま和歌に書き換えることの意義や面白さを理解する。	
後期	10月	「春は、あけぼの」(『枕草子』)	○語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	
	11月	「ある人、弓射ること習ふに」 (『徒然草』)	○文語のきまりを理解する。 ○作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する方法を学ぶ。	
	12月	「こころの帆」	○俳句の表現方法を理解し、その俳句の情景や作者の心情を読みとる。 ○季語・切れ字など、俳句独特の表現方法を理解する。 ○自分の心情や見た情景を俳句に詠む。	
	1月	漢文入門	○中国語と日本語の違いについて学ぶ。 ○訓点を理解し、慣れる。 ○書き下し文が書けるようになる。	
	2月	漁夫之利	○訓読、書き下し文に慣れる。 ○句法について学ぶ。 ○故事成語の成り立ちと現在の使われ方について学ぶ。	
			後期期末考査	
	3月	古代人と会話ができるか	○今日の日本語がどのような歴史的変遷を経てきたのか、理解する。 ○「言葉」に対する興味・関心をもつ。	

教科	国語	科目	論理国語	単位数	2	履修年次	1年	2年	3年
						履修形態		必修	

教科書	第一学習社 高等学校 標準 論理国語	副教材等	第一学習社「標準 論理国語 学習課題集」 数研出版「評論速読トレーニング700/1000」
-----	-----------------------	------	--

### 1 学習の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。

(2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

### 2 身に付けてほしい力

<input type="radio"/> 学びの価値を重んじる思考力	<input type="radio"/> あきらめずに最後までやり通す忍耐力
<input type="radio"/> 規律やルールを守り、目標を追求する行動力	<input type="radio"/> 多様な価値を認め、他者と助け合う友愛力

### 3 学習評価(評価規準と評価方法)

評価の観点	知識および技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的、創造的に考える力や、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。
評価の方法	○定期考査、単元テスト ○学習活動の状況 ○ワークシートへの取り組み	○定期考査、単元テスト ○学習活動の状況 ○ワークシートへの取り組み	○定期考査、単元テスト ○学習活動の状況 ○ワークシートへの取り組み

### 4 先生からのアドバイス(予習・復習の方法、授業の受け方など)

○定期考査や単元テストは授業内容を中心に出題します。授業には集中して取り組みましょう。  
不明な点や納得のいかないことは積極的に質問しましょう。

○原則的に週一回、速読の練習を行います。

○家庭学習(授業の復習、漢字学習、テスト対策など)を推奨します。

○考査の点数だけでなく、一生懸命努力する生徒を積極的に評価し応援します。

○忘れ物や提出物の遅れ、授業中の内職や居眠りは大幅なマイナスになります。